

# 枚方市商工だより

(2013年4月)

[主な内容]

地域経済動向調査 VOL-94 (2013年1~3月)

枚方市

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業者規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2013年4月上旬に877社に発送し、回答期限までに207社から回答が得られた。

全体の回答率は23.6%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表1. 業種別回答状況

集約業種名		母集団	回答数	回答率
製 造 業	食料・飲料	21	6	28.6
	繊維・衣服	53	8	15.1
	木材・家具	14	2	14.3
	紙・出版・印刷	32	9	28.1
	化学・プラスチック	50	17	34.0
	鉄鋼・非鉄金属	27	11	40.7
	金属製品	59	14	23.7
	一般機械	60	10	16.7
	電気機械	33	7	21.2
	その他の製造業	36	10	27.8
製造業計		385	94	24.4
非 製 造 業	建設業	101	30	29.7
	卸売業	54	14	25.9
	小売業	163	30	18.4
	飲食店	62	10	16.1
	サービス業	112	29	25.9
	非製造業計		492	113
合計		877	207	23.6

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	77	15	19.5	—	—	—	86	12	14.0
4～9人*	87	26	29.9	237	46	19.4	324	72	22.2
10～19人	70	19	27.1	133	34	25.6	203	53	26.1
20～29人	26	9	34.6	53	13	24.5	79	22	27.8
30～49人	37	7	18.9	35	8	22.9	72	15	20.8
50～99人	34	5	14.7	19	6	31.6	53	11	20.8
100～199人	35	8	22.9	11	4	36.4	46	12	26.1
200～299人	6	1	16.7	3	1	33.3	9	2	22.2
300人以上	13	4	30.8	1	1	100.0	14	5	35.7
合計	385	94	24.4	492	113	23.0	877	207	23.6

\*)非製造業の規模4～9人は5～9人である。

## 【概要】

国内の景気は、一部に弱さが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。個人消費は、持ち直している。

先行きについては、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、マインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、雇用・所得環境の先行き等にも注意が必要である。

政府は4月の月例経済報告で、景気の基調判断を前月と同じく「一部に弱さが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる」としている。個人消費については「持ち直している」としている。物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

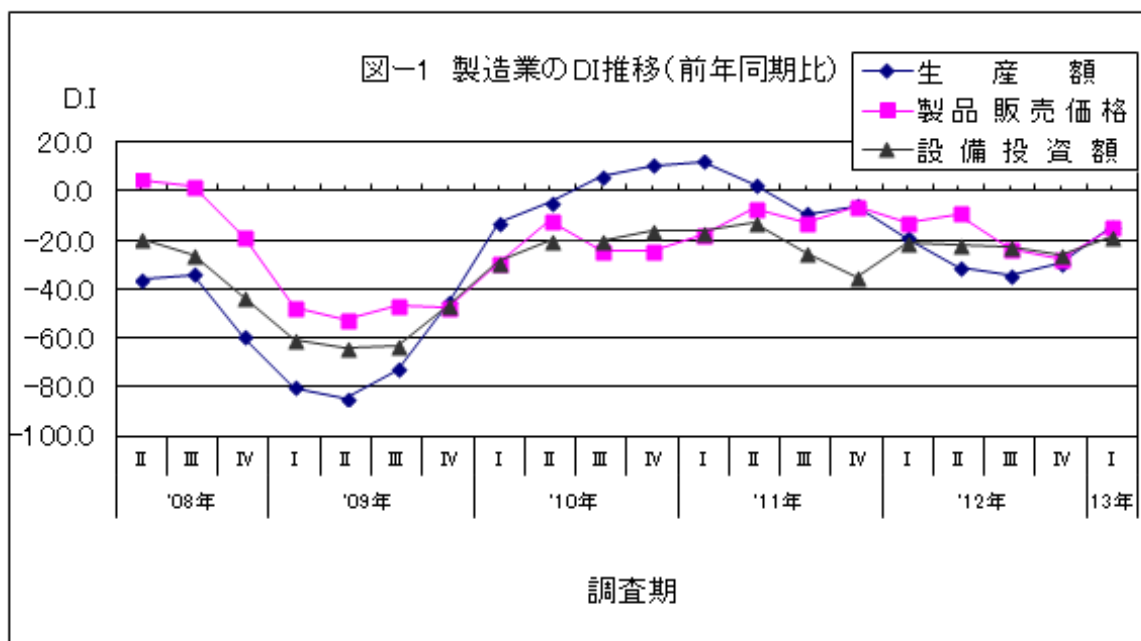
総務省が労働力調査において発表した平成25年3月の完全失業率（季節調整値）は、4.1%で、前月に比べ0.2P低下した。また、厚生労働省の発表した3月の有効求人倍率は0.86倍で、前月に比べ0.01P上昇した。

帝国データバンクによると、平成25年3月の倒産件数は836件で、前月比は2.6%、前年同月比は19.6%の減少となり、5ヶ月連続で前年同月を下回った。復興需要や設備投資の増加などを背景に、建設業が6ヶ月連続の前年同月比になったことが要因である。倒産件数のうち、不況型の倒産は681件である。構成比は81.5%で、前月と比べると2.4P、前年同月比でも0.4P下回った。負債額別にみると、負債5,000万円未満の倒産は423件で、構成比は50.6%と5ヶ月連続で過半数を占めている。地域別では、9地域中6地域で前年同月を下回った。なかでも、関東、九州の2地域は前年同月比30%超の大幅減少となった。一方、北海道、中部、四国の3地域は前年同月を上回った。景気D.Iは前月比1.5P増の41.3となり、4ヶ月連続で改善した。景気D.Iが40を超えたのは2007年10月（40.6）以来、5年5ヶ月ぶり。

2012年度の企業倒産は1万710件と前年度比減少となったものの、6年連続で1万件を超え、サブプライム・ローン問題が表面化して以降の水準で推移している。金融円滑化法終了後に取り揃えられている支援メニューを利用しても、経営改善が進まない企業群は相当数にのぼるだろう。2013年度はそうした企業群が倒産に至り、企業倒産件数全体を押し上げる可能性が高い。

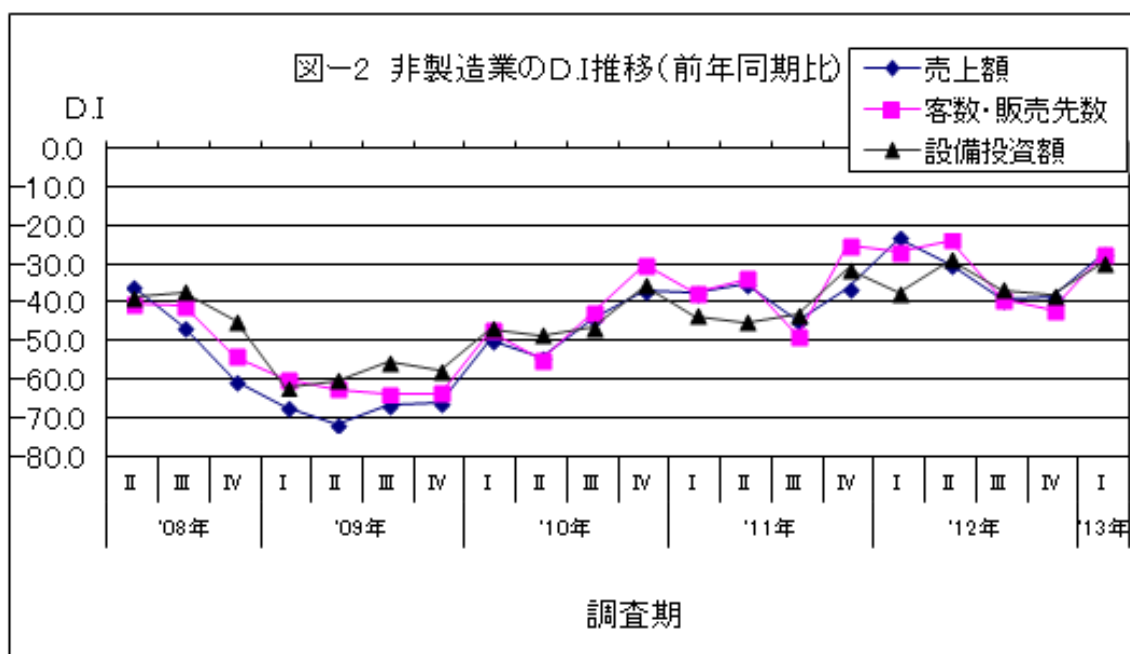
(注) 景気動向指標 (D. I = Diffusion Index)

= (増加・好転した企業の割合) - (減少・悪化した企業の割合)



2013年第1四半期(1~3月)の枚方市の、前期と比較した製造業の生産額、出荷額は、いずれもD.Iのマイナス幅が拡大している。製品在庫額は、適正企業が大多数を占めている。向こう3カ月の景況感は、D.Iのマイナス幅が縮小している。

前年同期比では、生産額、製品販売価格、設備投資額は、いずれもD.Iのマイナス幅が縮小している。



非製造業の、前期と比較した売上額、採算状況、向こう3ヶ月の景況は、D.Iのマイナス幅が縮小している。

前年同期と比較した売上額、客数・販売先数、設備投資額のD.Iは、いずれもD.Iのマイナス幅が縮小している。

表3 総括表(DIの推移)

景気動向指標		'07年			'08年				'09年				'10年	
		Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	
製 造 業	前期 比	生産額	-17.3	-17.4	-1.1	-26.9	-33.6	-33.0	-56.1	-70.8	-55.7	-27.8	-20.4	-21.0
		出荷額	-14.4	-16.5	-1.1	-22.8	-28.0	-35.4	-58.8	-68.1	-58.5	-30.8	-19.6	-18.3
		製品在庫額	-6.5	-12.8	-6.0	-12.5	-14.3	-9.7	-27.5	-23.3	-21.8	-19.6	-11.0	-17.0
	前期 比	原材料仕入額	64.6	55.6	62.8	63.0	81.3	67.7	6.3	-17.0	-1.9	7.6	-2.8	19.2
		製品販売価格	5.3	0.0	8.0	4.3	3.8	1.0	-19.8	-38.4	-38.7	-27.4	-31.4	-21.2
		採算状況	-33.7	-33.0	-48.3	-35.9	-54.2	-56.7	-63.2	-74.6	-63.6	-46.3	-31.5	-38.1
		資金繰り	-6.2	-15.4	-25.0	-16.3	-27.1	-33.0	-37.2	-52.7	-45.3	-33.6	-28.0	-27.9
	前期 年比	受注状況	-13.4	-27.2	-5.7	-23.7	-38.7	-43.3	-67.5	-79.8	-69.2	-34.3	-29.9	-21.9
		向こう3ヵ月の景況	-4.1	-7.8	-24.4	-30.0	-34.3	-48.5	-77.0	-67.3	-38.3	-33.3	-30.6	-30.5
		生産額	-6.1	-18.5	-16.9	-26.1	-36.4	-34.0	-59.6	-80.5	-84.9	-72.9	-45.8	-13.3
前期 年比	製品販売価格	12.6	-1.1	-1.1	7.7	4.7	2.1	-18.6	-47.3	-52.8	-46.7	-47.6	-29.8	
	設備投資額	10.6	-5.6	-5.9	-10.2	-19.2	-26.0	-43.2	-60.9	-64.1	-63.4	-46.6	-29.0	
	売上額	-14.4	-22.6	-25.2	-42.2	-40.3	-38.4	-52.7	-66.7	-47.9	-57.9	-43.5	-43.8	
非 製 造 業	前期 比	採算状況	-30.3	-43.1	-46.9	-55.6	-57.0	-55.5	-66.4	-73.9	-60.0	-69.9	-54.4	-54.4
		資金繰り	-18.0	-29.8	-30.6	-37.3	-38.9	-43.2	-44.3	-56.3	-46.2	-50.4	-40.6	-41.5
		向こう3ヵ月の景況	-30.1	-34.1	-47.3	-54.1	-52.8	-60.0	-74.0	-67.4	-50.7	-51.9	-63.7	-46.3
	前期 年比	売上額	-15.4	-35.5	-34.7	-51.5	-35.7	-46.5	-60.3	-67.4	-71.7	-66.7	-66.4	-50.0
		客数・販売先数	-19.8	-35.2	-29.7	-47.3	-40.4	-41.1	-54.3	-60.2	-62.7	-64.0	-63.7	-47.5
		設備投資額	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-37.4	-44.9	-62.2	-60.3	-55.5	-57.8	-47.0

景気動向指標		'10年			'11年				'12年				'13年	
		Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	
製 造 業	前期 比	生産額	-5.1	-12.4	-5.7	-3.2	-11.6	-2.4	-15.7	-16.1	-35.4	-40.2	-15.8	-20.2
		出荷額	-5.0	-9.6	-10.5	-2.2	-16.5	-4.8	-15.0	-12.0	-38.8	-41.7	-16.0	-20.4
		製品在庫額	-5.3	-3.0	-1.3	0.0	-14.1	-10.1	-11.5	-3.4	-7.3	-11.0	-1.1	1.1
	前期 比	原材料仕入額	32.3	18.3	32.6	37.4	39.8	35.7	19.5	28.3	9.3	-1.0	17.4	31.2
		製品販売価格	-23.5	-18.8	-20.9	-8.7	-8.5	-10.8	-12.2	-20.9	-10.3	-22.3	-20.4	-16.3
		採算状況	-33.7	-32.4	-31.0	-23.4	-38.4	-30.6	-14.5	-31.5	-38.4	-36.7	-27.4	-26.9
		資金繰り	-21.4	-24.3	-23.3	-10.8	-14.6	-19.3	-14.8	-19.8	-29.9	-16.7	-17.4	-9.8
	前期 年比	受注状況	-10.9	-13.3	-14.9	-6.5	-17.6	-22.4	-22.9	-22.6	-36.1	-41.8	-28.4	-28.7
		向こう3ヵ月の景況	-5.0	-28.8	-15.1	-43.6	-8.1	-20.5	-28.8	-18.7	-24.7	-37.5	-16.3	-8.8
		生産額	-5.0	5.7	10.3	11.8	2.3	-9.4	-6.1	-19.4	-31.3	-34.7	-29.5	-14.9
前期 年比	製品販売価格	-12.1	-24.8	-24.4	-18.0	-7.2	-13.3	-6.2	-13.3	-9.3	-24.0	-28.0	-15.1	
	設備投資額	-20.6	-20.2	-16.0	-16.7	-13.3	-25.0	-35.0	-20.9	-22.1	-22.7	-25.8	-18.5	
	売上額	-45.7	-34.6	-24.8	-33.9	-29.4	-35.3	-24.3	-22.4	-30.6	-34.2	-33.9	-24.8	
非 製 造 業	前期 比	採算状況	-54.3	-51.1	-49.6	-46.0	-55.1	-56.7	-41.7	-34.8	-44.6	-48.2	-40.9	-31.9
		資金繰り	-46.5	-40.9	-42.2	-38.2	-40.3	-47.5	-37.7	-26.1	-40.0	-37.8	-30.4	-27.4
		向こう3ヵ月の景況	-45.5	-48.1	-38.6	-51.3	-40.5	-37.0	-40.0	-36.8	-46.6	-46.3	-38.9	-16.1
	前期 年比	売上額	-54.4	-44.4	-37.0	-37.8	-35.6	-45.0	-36.3	-23.3	-30.3	-39.1	-38.9	-27.4
		客数・販売先数	-55.1	-42.7	-30.4	-37.6	-34.1	-48.9	-25.3	-27.2	-24.1	-39.2	-42.1	-27.7
		設備投資額	-48.6	-46.5	-35.8	-43.5	-45.1	-43.1	-31.5	-37.7	-29.1	-36.8	-38.2	-29.7

# 1. 製造業の景気動向

## ①【生産額】

前期と比べた当期（2013年1～3月）の生産額は、増加21.3%、横這37.2%、減少41.5%となっている。総合D.Iはマイナス20.2Pである。業種別にみると、食料・飲料、紙・出版・印刷は、増加が減り、D.Iがプラスからマイナスになっている。木材・家具は、前期0だった増加が増え、D.Iがマイナスからプラスに転じている。

前年同期比では、増加26.6%、横這31.9%、減少41.5%である。総合D.Iはマイナス14.9Pである。業種別にみると、繊維・衣服、鉄鋼・非鉄金属、金属製品は、減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。電気機械は、増加が減り、D.Iがマイナスからプラスに転じている。

表4. 生産額

業 種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	6	0.0	66.7	33.3	-33.3	6	33.3	50.0	16.7	16.7
	繊維・衣服	8	0.0	50.0	50.0	-50.0	8	12.5	50.0	37.5	-25.0
	木材・家具	2	50.0	50.0	0.0	50.0	2	100.0	0.0	0.0	100.0
	紙・出版・印刷	9	11.1	33.3	55.6	-44.4	9	11.1	33.3	55.6	-44.4
	化学・プラスチック	17	17.6	41.2	41.2	-23.5	17	29.4	41.2	29.4	0.0
	鉄鋼・非鉄金属	11	36.4	54.5	9.1	27.3	11	27.3	36.4	36.4	-9.1
	金属製品	14	35.7	21.4	42.9	-7.1	14	35.7	7.1	57.1	-21.4
	一般機械	10	10.0	50.0	40.0	-30.0	10	0.0	50.0	50.0	-50.0
	電気機械	7	57.1	0.0	42.9	14.3	7	57.1	14.3	28.6	28.6
	その他の製造業	10	10.0	20.0	70.0	-60.0	10	20.0	20.0	60.0	-40.0
製造業計	94	21.3	37.2	41.5	-20.2	94	26.6	31.9	41.5	-14.9	

## ②【出荷額】

当期の出荷額は、増加21.5%、横這36.6%、減少41.9%となっている。総合D.Iはマイナス20.4Pである。業種別にみると、食料・飲料、紙・出版・印刷は、増加が増え、D.Iがマイナスからプラスに転じている。

表5. 出荷額

業 種	出荷額は					
	前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	6	0.0	66.7	33.3	-33.3
	繊維・衣服	7	0.0	57.1	42.9	-42.9
	木材・家具	2	50.0	50.0	0.0	50.0
	紙・出版・印刷	9	11.1	33.3	55.6	-44.4
	化学・プラスチック	17	17.6	41.2	41.2	-23.5
	鉄鋼・非鉄金属	11	36.4	54.5	9.1	27.3
	金属製品	14	35.7	14.3	50.0	-14.3
	一般機械	10	10.0	50.0	40.0	-30.0
	電気機械	7	57.1	0.0	42.9	14.3
	その他の製造業	10	10.0	20.0	70.0	-60.0
製造業計	93	21.5	36.6	41.9	-20.4	

### ③【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 7.8%、適正 85.6%、過剰 6.7%である。総合 D.I は 1.1P となっている。適正水準の企業が大多数を占めている。業種別にみると、木材・家具は、前期と変わらず、すべての企業が適正である。鉄鋼・非鉄金属は、前期 0 の不足がみられる。

表6. 製品在庫額

業 種	在庫額は 前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製 造 業	食料・飲料	6	0.0	83.3	16.7	-16.7
	繊維・衣服	7	28.6	71.4	0.0	28.6
	木材・家具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	9	0.0	88.9	11.1	-11.1
	化学・プラスチック	16	12.5	87.5	0.0	12.5
	鉄鋼・非鉄金属	11	9.1	81.8	9.1	0.0
	金属製品	13	7.7	84.6	7.7	0.0
	一般機械	10	0.0	90.0	10.0	-10.0
	電気機械	6	16.7	83.3	0.0	16.7
	その他の製造業	10	0.0	90.0	10.0	-10.0
製造業計	90	7.8	85.6	6.7	1.1	

### ④【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 34.4%、横這 62.4%、値下がり 3.2%である。総合 D.I はプラス 31.2P となっている。業種別にみると、化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄金属、金属製品、その他の製造業は、値上がりが増え、D.I のプラス幅が拡大している。

表7. 原材料仕入額

業 種	仕入額は 前期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	6	50.0	50.0	0.0	50.0
	繊維・衣服	7	42.9	57.1	0.0	42.9
	木材・家具	2	50.0	50.0	0.0	50.0
	紙・出版・印刷	9	0.0	88.9	11.1	-11.1
	化学・プラスチック	17	41.2	52.9	5.9	35.3
	鉄鋼・非鉄金属	11	54.5	36.4	9.1	45.5
	金属製品	14	35.7	64.3	0.0	35.7
	一般機械	10	40.0	60.0	0.0	40.0
	電気機械	7	14.3	85.7	0.0	14.3
	その他の製造業	10	20.0	80.0	0.0	20.0
製造業計	93	34.4	62.4	3.2	31.2	

### ⑤【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 3.3%、横這 77.2%、値下がり 19.6%となっている。総合 D.I はマイナス 16.3P である。業種別にみると、繊維・衣服、鉄鋼・非鉄金属は、値上がりが増え、D.I がマイナスから 0 になっている。木材・家具、化学・プラスチックは、値下がりがなくなり、D.I がマイナスから 0 になっている。

前年同期比では、値上がり 7.5%、横這 69.9%、値下がり 22.6%となっている。総合 D.I はマイナス 15.1P である。業種別にみると、鉄鋼・非鉄金属、一般機械、電気機械、その他の製造業は、値下げが減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表8. 製品販売価格

業種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	6	0.0	100.0	0.0	0.0	6	16.7	50.0	33.3	-16.7
	繊維・衣服	6	16.7	66.7	16.7	0.0	7	28.6	42.9	28.6	0.0
	木材・家具	2	0.0	100.0	0.0	0.0	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	9	0.0	44.4	55.6	-55.6	9	0.0	55.6	44.4	-44.4
	化学・プラスチック	17	0.0	100.0	0.0	0.0	17	5.9	94.1	0.0	5.9
	鉄鋼・非鉄金属	11	18.2	63.6	18.2	0.0	11	27.3	27.3	45.5	-18.2
	金属製品	14	0.0	85.7	14.3	-14.3	14	0.0	78.6	21.4	-21.4
	一般機械	10	0.0	70.0	30.0	-30.0	10	0.0	80.0	20.0	-20.0
	電気機械	7	0.0	71.4	28.6	-28.6	7	0.0	85.7	14.3	-14.3
	その他の製造業	10	0.0	70.0	30.0	-30.0	10	0.0	80.0	20.0	-20.0
製造業計	92	3.3	77.2	19.6	-16.3	93	7.5	69.9	22.6	-15.1	

### ⑥【採算状況】

前期と比べた採算状況は、好転 18.3%、横這 36.6%、悪化 45.2%となっている。総合 D.I はマイナス 26.9P である。業種別によると、電気機械は、好転が増え、D.I がマイナスからプラスに転じている。食料・飲料、化学・プラスチックは、悪化が増え、D.I がプラスからマイナスになっている。

表9. 採算状況

業種	採算状況は					
	前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	6	0.0	33.3	66.7	-66.7
	繊維・衣服	8	12.5	50.0	37.5	-25.0
	木材・家具	2	0.0	0.0	100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	9	0.0	44.4	55.6	-55.6
	化学・プラスチック	16	12.5	43.8	43.8	-31.3
	鉄鋼・非鉄金属	11	36.4	18.2	45.5	-9.1
	金属製品	14	35.7	21.4	42.9	-7.1
	一般機械	10	0.0	50.0	50.0	-50.0
	電気機械	7	42.9	28.6	28.6	14.3
	その他の製造業	10	20.0	50.0	30.0	-10.0
製造業計	93	18.3	36.6	45.2	-26.9	



## ⑦【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転 12.0%、横這 66.3%、悪化 21.7%となっている。総合 D.I はマイナス 9.8P である。業種別にみると、電気機械は、悪化が減り、D.I がマイナスから 0 になっている。鉄鋼・非鉄金属は悪化がなくなり、D.I がマイナスからプラスになっている。

表10. 資金繰り

業種	資金繰りは 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	6	0.0	83.3	16.7	-16.7
	繊維・衣服	7	14.3	42.9	42.9	-28.6
	木材・家具	2	50.0	0.0	50.0	0.0
造	紙・出版・印刷	9	0.0	77.8	22.2	-22.2
	化学・プラスチック	17	11.8	70.6	17.6	-5.9
	鉄鋼・非鉄金属	11	18.2	81.8	0.0	18.2
	金属製品	14	21.4	57.1	21.4	0.0
業	一般機械	9	0.0	66.7	33.3	-33.3
	電気機械	7	28.6	42.9	28.6	0.0
	その他の製造業	10	0.0	80.0	20.0	-20.0
	製造業計	92	12.0	66.3	21.7	-9.8

## ⑧【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 14.9%、横這 41.5%、減少 43.6%である。総合 D.I はマイナス 28.7P である。業種別にみると、金属製品、一般機械、電気機械は、減少が減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表11. 受注状況

業種	受注状況は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	6	0.0	66.7	33.3	-33.3
	繊維・衣服	8	25.0	62.5	12.5	12.5
	木材・家具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
造	紙・出版・印刷	9	11.1	33.3	55.6	-44.4
	化学・プラスチック	17	11.8	35.3	52.9	-41.2
	鉄鋼・非鉄金属	11	27.3	45.5	27.3	0.0
	金属製品	14	28.6	28.6	42.9	-14.3
業	一般機械	10	0.0	60.0	40.0	-40.0
	電気機械	7	28.6	14.3	57.1	-28.6
	その他の製造業	10	0.0	30.0	70.0	-70.0
	製造業計	94	14.9	41.5	43.6	-28.7

### ⑨【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 15.2%、横這 51.1%、減少 33.7%である。総合 D.I はマイナス 18.5P である。業種別にみると、化学・プラスチックは、増加が増え、D.I が 0 からプラスになっている。食料・飲料は、前回 0 だった増加がみられ、D.I がマイナスからプラスに転じている。

表12. 設備投資額

業 種	設備投資額は 前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	6	33.3	66.7	0.0	33.3
	繊維・衣服	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
	木材・家具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	9	11.1	55.6	33.3	-22.2
	化学・プラスチック	16	25.0	56.3	18.8	6.3
	鉄鋼・非鉄金属	11	18.2	36.4	45.5	-27.3
	金属製品	14	21.4	28.6	50.0	-28.6
	一般機械	10	0.0	60.0	40.0	-40.0
	電気機械	7	0.0	42.9	57.1	-57.1
	その他の製造業	10	10.0	60.0	30.0	-20.0
製造業計	92	15.2	51.1	33.7	-18.5	

### ⑩【向こう3カ月の景況】

来期の景気見通しは、好転 19.8%、横這 51.6%、悪化 28.6%となっている。総合 D.I はマイナス 8.8P である。業種別にみると、木材・家具、紙・出版・印刷、その他の製造業は、悪化が減り、D.I がマイナスから 0 になっている。

表13. 向こう3カ月の景況

業 種	向こう 3カ月の景況					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	6	16.7	66.7	16.7	0.0
	繊維・衣服	7	28.6	42.9	28.6	0.0
	木材・家具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	9	11.1	77.8	11.1	0.0
	化学・プラスチック	17	17.6	52.9	29.4	-11.8
	鉄鋼・非鉄金属	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
	金属製品	13	30.8	46.2	23.1	7.7
	一般機械	10	10.0	40.0	50.0	-40.0
	電気機械	7	14.3	42.9	42.9	-28.6
	その他の製造業	9	33.3	33.3	33.3	0.0
製造業計	91	19.8	51.6	28.6	-8.8	

## 2. 建設業の景気動向

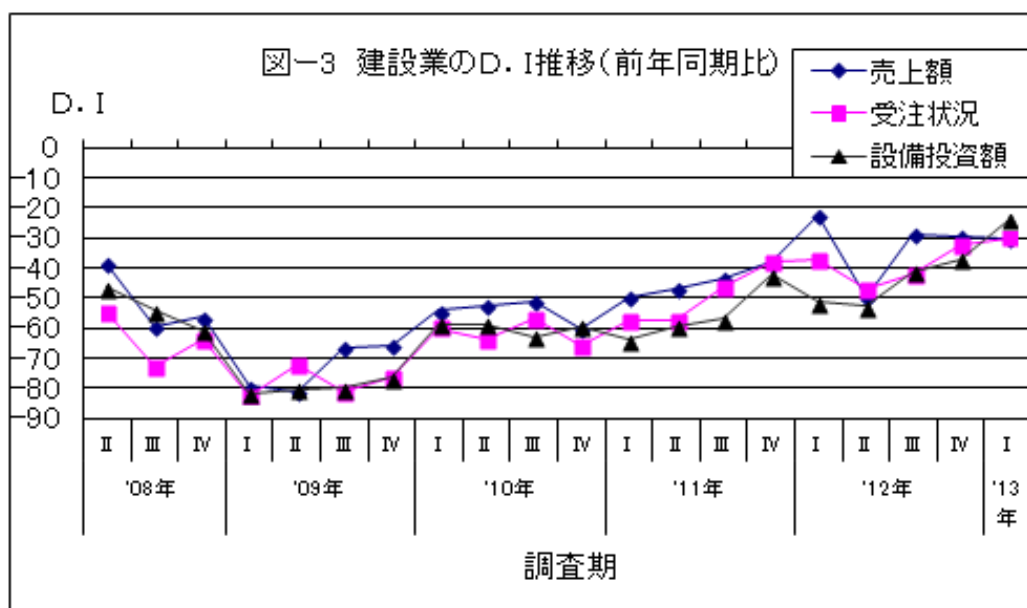
建設業の売上額は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。労務費は、前期に引き続き、横這が8割以上を占めている。売上額、工事引合件数、採算状況、資金繰り、受注状況は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。受注単価は前期0の値上がりがみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。

向こう3ヵ月の景況感は、大きな変化はない。

表14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	30	23.3	30.0	46.7	-23.3
	資材仕入価格	30	30.0	66.7	3.3	26.7
	労務費	30	13.3	83.3	3.3	10.0
	工事引合件数	30	23.3	36.7	40.0	-16.7
	受注単価	30	3.3	73.3	23.3	-20.0
	採算状況	30	13.3	46.7	40.0	-26.7
	資金繰り	30	13.3	46.7	40.0	-26.7
	受注状況	30	23.3	36.7	40.0	-16.7
	向こう3ヵ月の景況	30	10.0	40.0	50.0	-40.0
前年同期比	売上額	30	20.0	30.0	50.0	-30.0
	受注状況	30	13.3	43.3	43.3	-30.0
	設備投資額	29	13.8	48.3	37.9	-24.1

前年同期比では、売上額、受注状況のD.Iに大きな変化はない。設備投資額は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。



### 3. 卸売業の景気動向

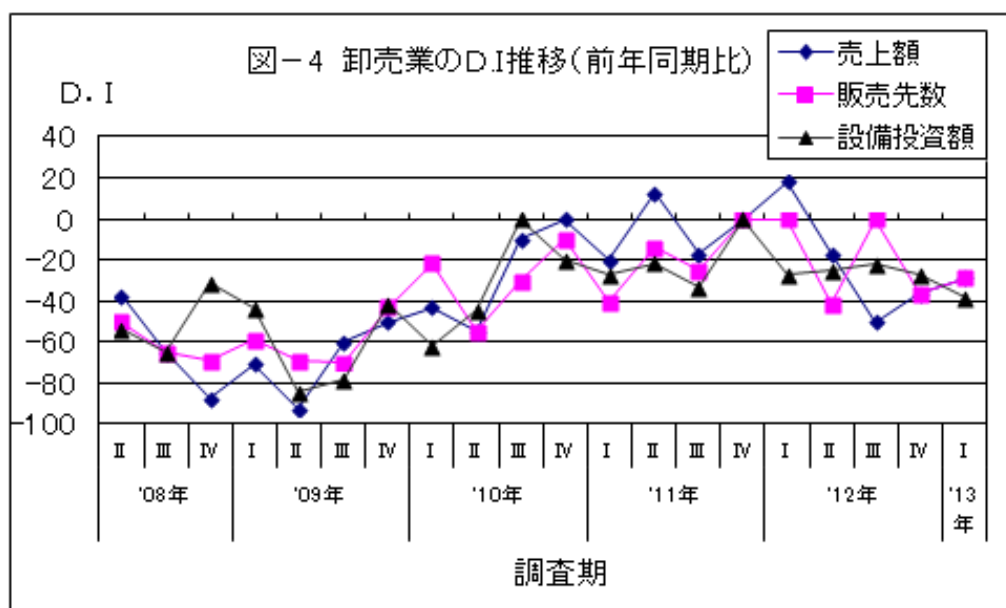
卸売業の売上額は、大きな変化はない。販売先数は、減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。商品仕入価格は、増加が増え、D.Iのプラス幅が拡大している。資金繰りは、前回0だった悪化がみられ、D.Iがプラスからマイナスになっている。

向こう3カ月の景況感は、悪化が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。

表15. 卸売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	14	21.4	28.6	50.0	-28.6
	販売先数	14	7.1	64.3	28.6	-21.4
	客単価	14	7.1	42.9	50.0	-42.9
	商品仕入価格	14	42.9	57.1	0.0	42.9
	商品在庫	14	7.1	50.0	42.9	-35.7
	商品販売価格	14	7.1	64.3	28.6	-21.4
	採算状況	14	14.3	35.7	50.0	-35.7
	資金繰り	14	14.3	57.1	28.6	-14.3
	荒利益率	14	14.3	42.9	42.9	-28.6
向こう3カ月の景況	14	7.1	64.3	28.6	-21.4	
前年同期比	売上額	14	21.4	28.6	50.0	-28.6
	販売先数	14	7.1	57.1	35.7	-28.6
	設備投資額	13	7.7	46.2	46.2	-38.5

前年同期比では、売上額は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。販売先数は、減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。



#### 4. 小売業の景気動向

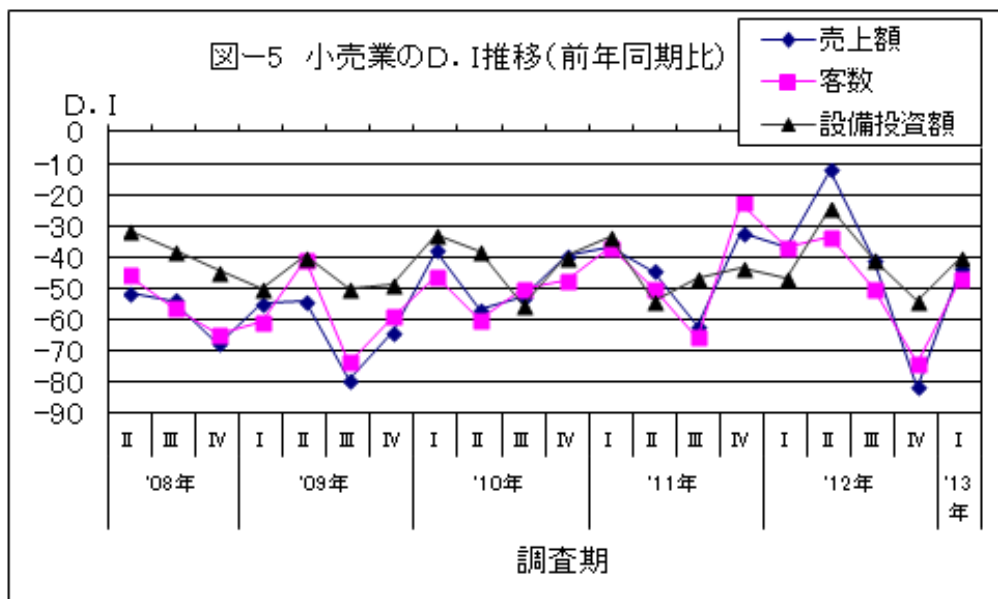
小売業の売上額と客数は、増加が増え、D. I のマイナス幅が縮小している。商品仕入価格、商品販売価格は、横這が7割以上を占めている。採算状況は好転が増え、D. I のマイナス幅が縮小している。荒利益率は、悪化が増え、D. I のマイナス幅が拡大している。

向こう3カ月の景況感の好転見通しは依然として少数である。

表16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	30	16.7	36.7	46.7	-30.0
	客数	30	13.3	33.3	53.3	-40.0
	客単価	29	10.3	51.7	37.9	-27.6
	商品仕入価格	29	17.2	75.9	6.9	10.3
	商品在庫	30	6.7	63.3	30.0	-23.3
	商品販売価格	30	6.7	73.3	20.0	-13.3
	採算状況	30	6.7	46.7	46.7	-40.0
	資金繰り	30	3.3	50.0	46.7	-43.3
	荒利益率	30	0.0	36.7	63.3	-63.3
	向こう3カ月の景況	30	6.7	70.0	23.3	-16.7
前年同期比	売上額	30	10.0	36.7	53.3	-43.3
	客数	30	10.0	33.3	56.7	-46.7
	設備投資額	30	6.7	46.7	46.7	-40.0

前年同期比では、売上額、客数、設備投資額は減少が減り、D. I のマイナス幅が縮小している。



## 5. 飲食店の景気動向

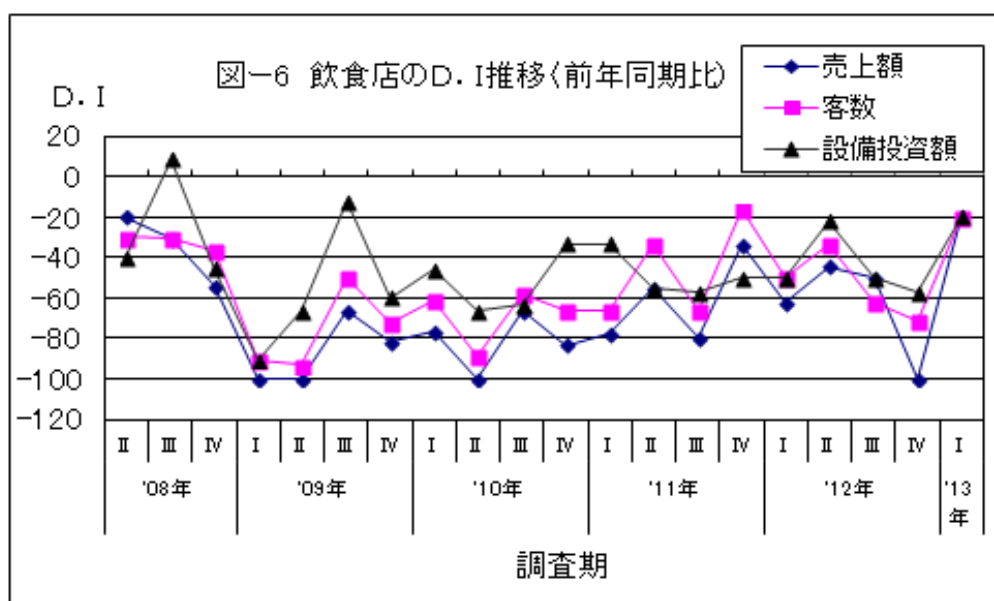
飲食店の売上額は、減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。客数に大きな変化はない。採算状況は、悪化が6割以上を占めている。客単価、荒利益率は、前回0だった増加がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。

向こう3カ月の景況感は、前期0だった好転がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。

表17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	10	20.0	30.0	50.0	-30.0
	客数	10	20.0	40.0	40.0	-20.0
	客単価	10	10.0	40.0	50.0	-40.0
	採算状況	10	10.0	30.0	60.0	-50.0
	資金繰り	10	10.0	40.0	50.0	-40.0
	荒利益率	10	20.0	20.0	60.0	-40.0
	向こう3カ月の景況	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
前年同期比	売上額	10	30.0	20.0	50.0	-20.0
	客数	10	30.0	20.0	50.0	-20.0
	設備投資額	10	30.0	20.0	50.0	-20.0

前年同期比では、売上額、客数、設備投資額は、前回0だった増加がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。



## 6. サービス業の景気動向

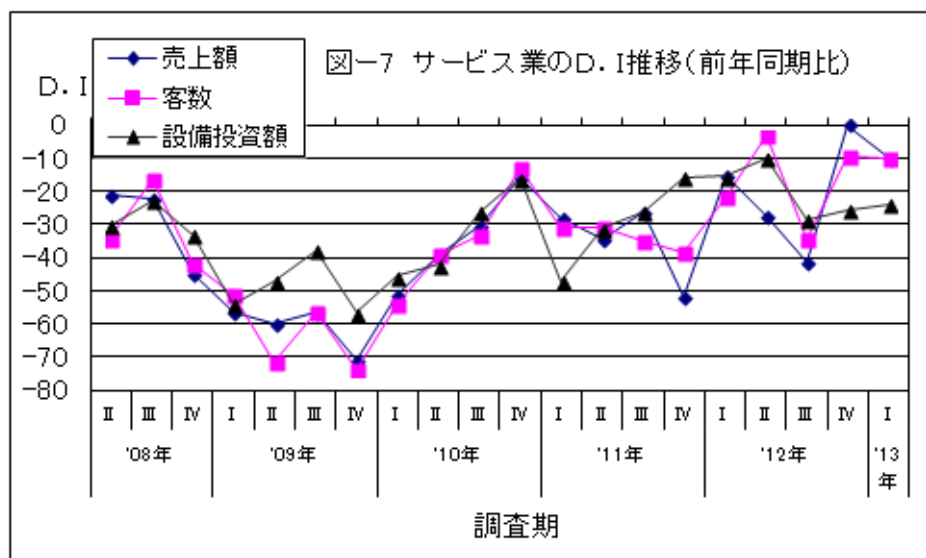
サービス業の売上額と客数は、増加が減り、D. I のマイナス幅が拡大している。資金繰りは横這が7割以上を占めている。荒利益率は好転が増え、D. I のマイナス幅が縮小している。

向こう3ヵ月の景況感は、横這が7割以上を占めている。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		事業所数	増加	横這	減少	D. I
			不足	適正	過剰	
			値上	横這	値下	
			好転	横這	悪化	
前期比	売上額	29	17.2	48.3	34.5	-17.2
	客数	29	10.3	58.6	31.0	-20.7
	客単価	29	6.9	55.2	37.9	-31.0
	採算状況	29	10.3	58.6	31.0	-20.7
	資金繰り	29	6.9	72.4	20.7	-13.8
	荒利益率	29	6.9	58.6	34.5	-27.6
	向こう3ヵ月の景況	29	20.7	72.4	6.9	13.8
前年同期比	売上額	29	20.7	48.3	31.0	-10.3
	客数	29	17.2	55.2	27.6	-10.3
年比	設備投資額	29	10.3	55.2	34.5	-24.1

前年同期比では、売上額は増加が減り、D. I は0 からマイナスになっている。客数には、大きな変化はない。



— 枚方市の当期の特徴

- ・ 製造業は、前期と比べて、原材料仕入額の値上がりが見られる。今後の見通しについては、好転が増えている。
- ・ 非製造業の前年同期比では、建設業、小売業、飲食店の D. I に回復が見られる。

自由意見

業種名	規模	自由意見
一般飲食店	B	消費税が8%に上がれば、我々個人商店は、預かり金とはいえ、プールしているお金を資金繰りに使ってしまう。そして払う時につらくなると思います。消費税が払えずに廃業する店が多くなる。
	F	チーズ、バター、生クリームは主原料となっているのでTPP。
一般機械器具製造業	E	依然として景気動向が不透明。今期以降について不安材料が多い。
	F	副資源等の値上げもあり、さらに光熱費の値上げもあり、さらなる採算の悪化を予想する方が大きい。
衣服・その他繊維製造業	A	今まさにマスコミの上ではアベノミクスでミニバブル。このまま続いて消費に向かうと良いのですが。
	B	受注増加するも単価が低く、採算状況が良くない。資金繰りをなんとかしたい。
	C	人材育成もままならない。助成金目当てではないが、なんとかならないものか。 一部加工料アップ
飲食料品卸売業	B	いつまで売上減少するのか。同業者の廃業が増加しています。
	C	アベノミクス、現実にはまだ感じない。 スーパーに全店アルコールをおいてダメになる。
	E	アベノミクスも期待先行も市況はまだまだマイナス。先行の水面下の不安感。
織物・衣服・身の回り品小売業	B	アベノミクスで株高で含み資産はよくなった様子ですが、小売業の売上げ、客数は減少し購買意欲はもうひとつです。
家具・建具・じゅう器小売業	B	先行の仕事が見えません。困っています。
		諸費用の上昇により、採算が苦しい。利益率が悪すぎる。
窯業・土石製品製造業	F	電力・ガス料金の値上げ
金属製品製造業	F	・電力料金値上げに対する経費増加 ・円安による海外仕入材料の値上げ（実賃）が懸念される
		「アベノミクス」って大企業向けですよ。中小企業はますます苦しくなります。はやくタテ割り行政からヨコのつながりを。
		アベノミクス効果がまだ来ていません。来るかどうかも分かりません。
自動車・自転車小売業	B	仕入を最大限にすると利益が伴うが、なかなか踏み切れない状態である。
職別工事業	B	いつまでたっても上向きにならない。「アベノミクス」もここまで来てくれるのはいつのことか？
	C	職人の日当をあげてほしい。受請単価の値上げ。
設備工事業	B	一見、景気上向きにも見えるが、円安、消費税など、不安要素も多く不透明。3カ月は良くても1年先はわからない。また、受注の山谷が激しく人的投資のタイミングが難しい。



繊維・衣服等卸売業	B	営業品目が消耗品で構成されている関係上、得意先の仕事量が少なく、売上が伸びない状況が続いている。
		電力料金、燃料等が値上げされる中で、中小零細企業は大企業に対して値上げ交渉が難しい。
総合工事業	B	景気が一向によくならず、これで増税にでもなれば廃業もやむなし。
	D	民需の増加を期待しています。
その他の製造業	B	大阪府の公共投資の拡大を望む。
鉄鋼業	C	ある業種のみが動いているだけに、まだまだ安心できない。
電機機械器具製造業	C	スポットを集めて活気はあるものの、効率が悪くて思うように売上に結び付かない。なんとかしなくては。
パルプ・紙・紙加工品製造業	E	春需が今ひとつ伸び悩む。黒田日銀総裁のバズーカ砲に期待する。
	G	円安方向による輸入原燃料の高騰が製造コストのUPとなり、製品価格に転嫁できないのが苦しい。
プラスチック製品製造業	G	停滞感が拭えない（全体的に）仕入原材料は値上げ基調であるが、業界的にまだまだ製品への値上げ転嫁含め、各社消極的である。
輸送用機械器具	E	販売額は横這いであるが、収益性の高いモノに切り換わっており、採算状況は回復してきた。

規模区分    A = 1～3人、B = 4～9人、C = 10～19人、D = 20～29人、  
E = 30～49人、F = 50～99人、G = 100人以上